新聞定價一ヶ月80圓 一部賣(3圓) 月曜休刊
磐 城 日 日
昭和29年(1954) 1月23日 (土曜日) 第1034号

磐城日日

発行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
編集兼発行人 梅野 隆

綱領

▲權力に屈せず言論の自由を守る
▲公平な批判、公明な報導
▲『今日の主張』をもつて本紙の社説とし基本的人權を擁護する

磐城日日新聞社

三萬町民の審判下る

立花氏の宿望成る

町議は小野、竹田氏

小名浜町町長、町議補欠選擧は小雨をついて行われ、投票率九割七厘という小名浜町有史以来の好成績をもつて午後六時投票を締め切り、直ちに五投票所から第一小学校講堂に投票箱が集められ永山六郎氏を選擧長に、以下各候補代表の立会人が左右に居並び渡邊地區署次席ら警察官の警戒の裡にこの結果如何とギッシリ詰めかけた町民の眼が注がれ、午後七時半、一齊に開票が開始され、町長選は午後十時十五分、町議選は遅れて十時五十三分判明、永山選擧長から朗々と發表され、場内は悲喜交々の歡聲にドッと湧きかえつた、開票結果次の通り

「町長選擧」
▼有効投票 一四、二九二
▼無効投票 一六六
▼投票總数 一三、四五八
▼棄權 一、四六三
▼投票率 九割七厘
当選 立花秀吉 七、四六四票
次点 志賀要平 六、八二八票

「町議選擧」
▼有効投票 一〇、七三九
▼無効 五八一
▼投票總数 一一、三二〇
▼棄權 一、〇六七
▼投票率 九割一分三厘
當選 小野幸次郎 四、三八四票
竹田千里 四、一七〇票
次点 杉本善之助 二、一六八

堂擧げされる立花

巨腹をゆする小野

各とう選者の事務所は運動員、關係者がギッシリと詰めかけ開票場から刻々に流がされて来る情報に一喜一憂していたが十時二十分立花当選の確報に立花陣はワッと割れ返える様な歡聲となり、早やくも立花当せんの報にドッと押し寄せる支持者大衆で事務所前は黒山となり万才〱の歡呼に立花新町長はその老顔を満面紅潮させて歡呼に應え

何も云えません、唯々嬉しさで一ぱいです有難う御座いました、〱、必ずやります

とのみ繰返えし興奮歡喜の大衆にその長身は三度に亘つて胴上げされ、更に本社號外が威勢の良い鈴の音を街中に振り撒けばこの歡聲は更に倍加して全町に木魂し深更に續いた

一方町議当選小野幸次郎氏の事務所は巨腹をゆすつて高らかに笑う小野氏を中心に同志連円陣をつくり祝盃を挙げれば、片や竹田氏は事務所を自宅に移して足の踏み場もない程の祝い客、労組員の万才に高山社宅はゆるがされていた

今日の主張

立花当選の意義とその後に來るもの

梅野 隆

三万小名浜町民の冷嚴なる審判は下つた、結果は立花候補七、四六四、志賀候補六、八二八、究極に於て立花候補支持の町民が六百三十六名だけ多かつたということである これがため、両者の間六百三十六票の差を以つて立花候補が勝利の榮冠を獲得した

この事を直ちに以つて人間立花、或いは志賀候補の價値判斷の資料とするとしたら大間違いである結論を先に言うならば、志賀候補より立花候補に此町の支持者が多かつた理由の最大なるものは、町政刷新の戦士として立花候補が打つて出た大義明分の上に集つた支持層の結集票に外ならない、しかも是を決定したものは、町政民主化確立に登場した政策十六項推進の精神である

斯くて立花氏は、新廳舎に新しい町政を確立、三万町民の希求する町民代表理事者としての輝かしい地位に押し上げられたこの票こそは立花個人の力が戦い取つたものでなく町民大衆の燃える町政刷新の熱情が、その代表者立花の上に注がれた形において得た勝利の姿なのである

そこで立花町政にかゝる今後の責任は重、且つ大である

若しも立花氏が舊態依然たる町政の中に自己の愉安をのみ求める町政を推進するとしたら町民大衆は直ちに立花町長を斬り立花放逐の火の手を挙げるに違いない

その意味に於いて、立花氏は今後嚴重なる町民監視の中に日常を呼吸し、嚴然たる町民代表としての公人立花に釘付けされた形の中に追い込まれたとも云えるのである

このことは、一にかゝつて、立花氏の良心の上に悩みともなり、誇りともなる性質のもので、立花氏が自ら進んでその公約を推進する限り、町民大衆と共に氏の生活は誇りに生き、是を裏切る限り氏の政治生命は直ちに嵐の前の燈火となるに至るであろう

立花氏としても決して人間は馬鹿でない、町民大衆の信頼を決して裏切らないであろうことを信じておく

一方志賀氏の場合である志賀氏個人としては落選誠に氣の毒という外はない

志賀要平氏に何等の罪もとがもない

町議二十四名中二十名という壓倒的多數の支持議員、並に各種団体上層部の支持にも拘らず志賀氏が落選したということはすでに今日これらの顔が町民に卒直に評價されるという事實、言葉を変えて言えばそれ以上に町民大衆の良識に發した時代精神が強かつた、という以外の何物でもない、町議諸公こそその意味に於いてまさに自己反省の秋であろう

町民は決していわゆる衆愚でない、という冷嚴なる事實の證明と共に、今次町長選の結果が個人の優劣に基ずくものでなく時代の力に押し切られたということを強調して敢えて今日の主張とする

當選證交付

立花町長を確認

小名浜町選擧管理委員会は二十二日午前十時から町役場会議室に開かれ、二十一日行われた町長、町議補欠選擧、開票結果を確認し、午後一時半から同室に當選者町長立花秀吉氏、町会議員小野幸次郎氏、竹田千里氏を招き管理委員立会のもとに当選證書の授與式を行い直ちに告示した

長瀬助役、四代に仕えて二十一日辭職

その財政手腕を惜まる

水野小名浜町長の任期は二十二日で満了となり、二十三日より新町長立花秀吉氏が登廳、政務を執ることになつた これより先に長瀬助役は二十一日水野町長から辞令を交附されて二十一日附辭職した、更に野崎收入役も二十二日附をもつて水野町長と共に辭職しとこに水野町政は三役共全部交替し、立花新町長の新政第一歩は助役收入役の選任が行われ、議會の證認を得て正式任命されることになり、町民の視目は立花氏が誰を助役に選任するかに集められている

二十一日附辭職した長瀬國三郎氏は大正十二年小名浜町役場に奉職以来今日迄町政事務にたずさわり、昭和十九年五月高木保町長の助役に就任以来高木保、志賀要平、樋口速、水野政次郎氏と四代の町長に助役としてこれを補佐し小名浜町に盡した功績は甚大なものがあり、就中その財政的手腕は高く評價されその離任は各方面から惜しまれている

歳末募金配布決定

錦町の民生委員会は十九日公民館会議室に於いて開催した この日凶作歳末の助け合い募金の分配方法などに付いて協議した 錦町の募金は一万五千九百圓を（町）二萬四千三百圓（縣）の合計四万二千二百圓で生活保護者一人当り二百圓平均が分配される 錦町の生活保護者は現在一一五名で、この助け合い募金は舊年末の二十日頃分配される事になつた尚これ等生活保護者に對しては町としても予算を計上新正月にも各々支給した

町營住宅入居者決る

新居移轉は舊正月

小名浜町大原乙新地内に建設された町営住宅二十戸の入居者選衡委員会は二十二日午前十時から、比佐政種、小野幸次郎、松田美枝、馬上達三、長瀬國三郎、村上保一郎の各委員によつて選衡した結果、次の人々が幸運の女神にほほえまれた（カッコ内は職業）

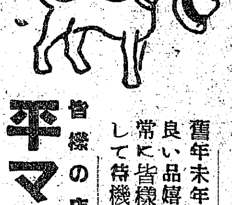
▼第一種 小口成慶（水産高）福田保夫（平機關區）杉内信雄（水素）佐々木高滋（〃）安藤甚一（〃）小野茂行（〃）渡邊三男（〃〃）千葉浩（〃）鷺正昭（〃）

▼第二種 黒澤德雄（指物業）澤田澄子（水試場）今泉芳惠（門井組）新井清（日星製作）木田正三郎（電話局）熊澤大植（水素）片寄清（役場）大関清（測候所）猪井廣文（一中）平子明雄（電話局）

天氣豫報 22

「本日」北乃至北西の風晴れのちくもり
「海上」風がやや強まり風波がない

インサツは……ナガセ



皆様のお店です
多服地ネルカセン純毛特價
夜具地と裏地フトンの手入
カネボウ毛糸 1900円
松月足袋別珍特製160円
豆別珍55円大人100円
純毛コットン1500円より
セータカーデガントツクリ
裏毛メリヤスはオリエント
学生服セーラ服學帽カバン
化粧品柳屋メヌマ ジュジュ・ウテナ 80円
ちどりフトン綿

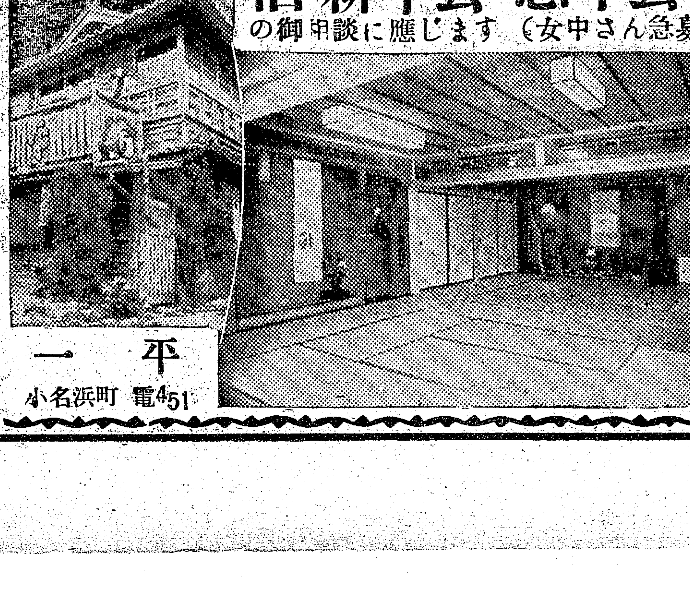
經營をかけずに良い品安く

舊年末年始の御贈答品良い品喜ばれる品私共は常に皆様の御相談相手として待機しています

チケット歡迎

皆様の店
平マーケット
小名浜第二小学校前 電二九七

旧新年会 忘年会 の御相談に應じます（女中さん急募）



一平
小名浜町 電451

電話新設お知らせ
毎度御引立に預り有難う存じます永らく御不便をお掛け致しましたが此之度電話七八九番が開通致しましたから何卒御利用御引立の程を御願ひ申上ます
第一位通産大臣賞受賞
マグネット自轉車代理店
高橋自轉車店
小名浜町上横町

「選擧戰を顧みて語る」座談會

司会＝御忙しいなかを恐縮ですが先日と同じメンバーと云うところで、立花当選をめぐつて先ず町長選の方から参りましよう……

R氏＝私は五百票の差で町長は志賀、町議は小野、竹田の豫想だつたが

I＝僕もそれが本命だと思つた、Bさんは立花が勝つと云つたね

B＝大きく離して千票の差はあると思つたが三百多かつたよ

司会＝実は私もBさんの豫想通り千票と見たんですが一寸樂屋話をしましようか

出席者
医師 k氏
土建業 B氏
會社員 I氏
商業 w氏
本社側
司会 比佐不二夫
森下記者

I＝何ですそれは……

司会＝前の座談會で、Wさんに新聞社の豫想はどうかねと聞かれたとき、実は私達も公にしなかつたんですが、氣持のいい位ピシヤリ當つていたんです、昨日の夕刊に豫想として發表しておけば男だつたんですが

K＝一つくわしく話してもらえまいか

司會＝それでは森下さんの大的中豫想から話題を進めましょう

常磐名産 みりん干

ピタリ!! 森下情報

志賀氏の得票に一八票の差

森下＝僕はね、告示から兩陣営の動きを十八日の夜までじつと見守つた結果、あの豫想を出したんだが正直なところ自分でも驚いたね、一五、九二二票の總票に對して棄權、無効を合わせて一、六〇〇票、有効投票は一四、三〇〇とみた、これを昨夜の投票と照らせば有効投票は差が僅か八票多かつただけだ

W＝ほう、凄いね

森下＝棄權、無効が一割の一、六〇〇、選管の發表が九分三厘の一、七〇〇、これも百票の違いだ

B＝しかし、よく摑んでるね、何ういう觀点から

森下＝それは感だね、町の昂奮には町民の一人〱の對立した感情が端的に現われていたところからさ……

甘い志賀の讀票

立花陣は防衛態勢

司会＝そう〱あれも適確だつたね

K…私も森下さんの豫想を或るところで實はきいたんだがね、驚いたのは志賀さんの票を六千八百票と見たととさ

B…志賀の得票は六千八百二十八票か

森下＝十八日の夜志賀陣営で六千三百―七千票の票を讀んでいた、そして作戰として十九、二十日の二日間で立花陣営から千票とるというわけだつたが僕は甘いと思つたね、選擧になると保守系は票を甘く讀みすぎる傾向がある、この点さ、二日間の追込みで千票も立花陣を切り崩すということは一日で五百票だ、味方陣の票ならいざ知らず敵票を一日で五百票かき集めることは容易じやない

B…その通りだ、しかし自信があつたのかね

森下＝かなりあつたらしい、これに對して立花の方は十八日で票をかため後はもつぱら切り崩しの防衛体勢をととのえ、それ一本で戰つていたよ

W…その頃の立花の讀票は?

森下＝分らん、三代義勝が〃私は選擧は初めてでさつぱり票はつかめない〃と正直に語つたが、敵の攻めを如何に防ぐかが勝敗の鍵だなんて言つてたよ

話はもとにもどるが、先程の六千三百―七千票の志賀陣の豫想に、僕は六千三百の最低を取つたこれは何れくわしく話したいが、志賀陣の票は今選擧の場合、根が擴ろがつていなかつた、それで二日間の千票は、五百票をとり一日二百五十票程度なら切り崩すことも或は可能かも知れない、七千票の線をとれば志賀さんはすでに十八日で投票数の半分をつかんでいる計算で当選確實と見られるわけだが、この線は疑問が多々あつたね

司会＝たとえば

森下＝まあ、これも後の話題にとつときたいね、いろ〱な角度から分析した結果、四つの見方としたと云うのは志賀が勝てば、大きく離して一、五〇〇票、得票は志賀…七、八〇〇、立花…六、五〇〇

司会＝その見方に何か注文をつけたいね

森下＝そう、「しかしこの志賀の票は最高票で甘く見ている」と言つたわけだ

司會＝もう一つ僅少の差も出ていたが

森下＝それはこうだ、志賀―七千三百、立花―七、〇〇〇

W＝成程、三〇〇の差だね

B＝これは一般の見方だつたね、立花が勝つてもせい〱三百という聲は可成りあつたな

司会＝とかく、接戰で何れに軍配があがつてもこの見方は强かつたんですね

森下＝そして最後に志賀さんの票を六、三〇〇〜七、〇〇〇迄と讀み、それ以上は絶對にとれない言う豫感がしましたね

司會＝何れにしろ、おそろしく當つているんで一寸紹介しましたが、この豫想を掘り下げて行けばいろ〱興味ある問題が出てくる思いますが、豫想の話はこの位にして町議に入りましよう

（續く）

町長選に一言

―町民の眞の味方は町長に―

大村てつや

天に原爆の、地に狂暴なるファシズムの嵐が吹きすさぶ暗黒日本の一九五四年の新春をむかえ、前途に多事多難を予想される今日、私は云いたい、まず東北の表玄かんの古い港町に終戰後幾度か選戰はあつた、その度に町民は、政治につよい審判を與えた

しかし、その審判は實を結ぶこととなく、むなしい仇花として枯れてしまふことが多かつたように記憶している、今や前途洋〱として、發展の途上にある小名浜町民の頭に、モヤモヤとおおいかぶさつた多くの難問が町民自身の手によつて解決されなければならぬ日が遂にやつて来たのである

磐城日日新聞の傳える處によると、小名浜町長、町議選戰には下馬評にのぼつたうわさの男達が出馬され、一騎当千の各候補共に揃つて、必勝の意氣に燃え立候補第一聲を紙上を通じ放なたれ、まことにその意氣天をつくと悲壮さを感ぜしめるに十分である、紙上には各候補共、政見を簡略にしか發表していないが、日をおつて言論戰を通じ訴えられることであらう

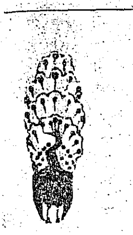
私は町政の主人公である町民諸氏に、町長、町議選という重大なる機会に私の思ふことを思ふ儘に述べ、キタンのない吐正を賜はらば幸である

先づ第一に各候補者のハラの中の政策を個々の問題について、はつきりとつかむ事は、町民にとつては容易なことではないと思ふがそれをしなければ、選きよのあとになつて、又しても、政治は町民大衆のものでなかつたといふ悔を千載に殘すことのないよう、とくと注意をかんきしたい、從つて、青年会 婦人会、その他各民主的団体が主催されて政治的ケイモウのためにこそ各候補立会政見發表会を「法定のワク以外」に大いに開催することが望ましく是非これは實現して欲しい

第二に、町政をよくしようという熱情からではなく自己の利益から立候補する如き人は全面的に排斥の烽火をあげたい、各候補が日頃胸に描く「抱負けいりん」＝町民大衆の最大多数の最大幸福具体化のために自分では、この度のせんきよにはうつていで、町民の皆様のためなら、水の中、火の中をも辭しませんとの大風呂敷を町民の前におしひろげるかも知れないが町民と固い約束をした公約がどれだけ忠實に履行されたかをみれば、多くその公約が實現されなかつた事に、賢明なる有權者諸氏の眼に余りにもはつきりと、わかりすぎるのではあるまいか

よの中のあらゆることが政治に直結している今日町民が心から信頼することのできるように、政治がよくならなければ、町政は町民のためのものにならないであらう。「せんきよ」の時だけ血みちをあげるのではなくして日常、私達の台所と直結している政治の動きに大きな「かんしん」をよせることと、だまされないために候ほう者の公私生活と言動とが、一致しているや否やをよろしくたしかめることが必要である

私利、私慾をおつて本当に三万小名浜町民をこよなく愛し、町民の生活をよくしたいと考へる人、町民のため、社會のために、おく〱へられることを期待せず、もく〱と奉仕するのだといふ考へ方生き方を今日まで貫き通した誠實な人にこそ、町政を安心して一任することができよう



志賀派の違反送検

既報…小名浜地區署では小名浜町上町上遠野シズエ（三四）、同町迎舟田キヨの二名を選擧違反の容疑で二十二日書類送檢した

上遠野はシガ派運動員某からの依頼で船田キヨ他一ピョウ三百円でシガ要平にトウヒョウを依頼した疑いである

編集メモ

小名浜町長選擧はせんきよ史上空前の激戰を展開して立花氏に凱歌が擧つう

町民の願いの指向するところ、町政民主化、町政刷新の意欲只ならざる結果に外ならないと見るべきだろう

※

小名浜埠頭グレーン竣工式盛大に擧行さる

港灣積荷、荷揚げの上に一大偉力を發揮する

要は同機使用に伴う運營に誤りなからんことを希うのみ

※

選擧戰を省りみて一言、町民の審判は絶對的なものである

品質本位、新柄の店
樋口呉服店
小名浜町 電三〇四

錦町營住宅工事進む

特耐アパート完成は三月末

錦町の公営住宅は大倉に五戸、中田に十五戸、なお特耐アパート八世帯入一棟が出来る

大倉地内に着手した九坪建の五戸は勝呂組の請負で早くも棟上げを十七日行つた

また中田迦如堂地内の十三坪建の十五戸は金成土建KK（金成泰二氏）の請負で鋭意工事中であり今月末頃上棟の運びとなる

また中田落合一番地に着手した特耐アパート一〇四坪建は錦興業株式會社の手で工事進行中であり完成は三月二十日頃の豫定である

なお一般住宅大倉地内に建設中の五戸、中田地内に建設中の十五戸はいずれも二月二十頃完成の豫定で建築に拍車をかけている

特耐アパートは縣下五市を除いては小名浜町と錦町で郡南菊多方部では最初のものである

消防と電話交換孃打合

植田町

植田町消防團（團長鷺文治氏）ではこの程公民館に植田郵便局の交換孃を招いて火災期に於ける消防との連絡打合せ会を開いた、終つて植田郵便局の交換室を訪ね、ウグイス孃達を交へて通話上力の意見の説明があつた

なお火災の場合の通話は「火事」で通話する樣星局長は語つている

錦婦人學級

料理と家政

錦町の婦人學級は二十二日公民館会議室に於いて開催した

この日午前九時より十二時まで植田町の改良指導課より久我先生を招いて料理講習会、一時より四時まで川部中学校教諭の佐川武子先生の家政一般に付いて講演があり盛会裡に修了、料理講習の内容は次の通りであつた

1、野菜入りダンゴ
2、のけあり
3、正月の口取、きんとん、松竹梅

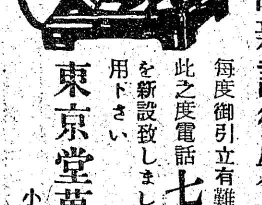
錦職業調査

農林業が壓倒

錦町ではこの程職業別人口を調査、その結果を發表した

農林業	一、三六八名
漁業	八名
鑛業	四一名
製造業	一二〇四名
建設業	二四五名
卸小賣業	二一八名
金融業	九名
運輸通信業	一二三名
サービス業	二二三名
公務自由業	五五名

の合計三千四百九十四名となつており農林の三九%製造の三四%が目立つている



電話新設御知らせ
毎度御引立有難う存じます
此之度電話七八二番を新設致しましたから御利用下さい
東京堂菓子店
小名浜町西町

時代劇は東映
21〜23日迄
同時上映
鬼伏せ街道
鼠と呼ばれて十手の雨に濡れて追はれる凶状持ち
待望千恵藏の鼠小僧と山根壽子の顔合せ
總天然色大西部劇
怒りの河
キンヒ館 小名浜